教育民生委員会記録

開会年月日	令和８年６月２日
開会時刻	午前 ９時 58 分
閉会時刻	午前 11 時 31 分
出席委員名	◎吉岡勝裕　○辻　孝記　山木英樹　谷口久美 池田　覚　宮﨑　誠　中村　功　楠木宏彦 北村　勝　議長
欠席委員名	なし
署名者	山木英樹　谷口久美
担当書記	中谷圭佑
審査案件	継続調査案件　伊勢市病院事業に関する事項 ・令和７年度経営状況について 継続調査案件　学校教育に関する事項 ・小中学校適正規模化・適正配置について 継続調査案件　保健福祉拠点に関する事項 ・健康福祉ステーションの利用状況について
説明員	病院事業管理者、経営推進部長、経営推進部参事、経営企画課長、 経営企画課副参事、医療事務課副参事 教育長、事務部長、学校教育部長、教育委員会事務局参事、 学校施設整備課長、学校教育課長、学校教育課副参事 資産経営部長、資産経営部参事 健康福祉部長、健康福祉部次長、健康福祉部参事、健康課長、 健康課副参事、子育て応援課長、こども発達支援室長、 こども発達支援室副参事、ほか関係参与

審査経過

吉岡委員長が開会を宣告し、会議成立宣言の後、会議録署名者に山木委員、谷口委員を指名した。その後、直ちに議事に入り、継続調査案件となっている「伊勢市病院事業に関する事項」、「学校教育に関する事項」及び「保健福祉拠点に関する事項」を順次議題とし、当局から説明を受け、質疑の後、今後も継続して調査をすることと決定し、委員会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

開会　午前９時58分

◎吉岡勝裕委員長

ただいまから教育民生委員会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立をいたしております。

これより会議に入ります。

会議録署名者２名は委員長において、山木委員、谷口委員の御両名を指名させていただきます。

本日御審査願います案件は、案件一覧のとおりでございます。

議事の進め方につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎吉岡勝裕委員長

御異議なしと認めます。そのように取り計らいをさせていただきます。

【伊勢市病院事業に関する事項】

〔令和７年度経営状況について〕

◎吉岡勝裕委員長

それでは、「伊勢市病院事業に関する事項」について御審査を願います。

「令和７年度経営状況について」当局から御説明をお願いします。

経営企画課長。

●西井経営企画課長

それでは、「令和７年度経営状況について」御説明申し上げます。

資料１を御覧ください。令和７年４月から令和８年３月までの患者数、収入、支出及び収支の状況でございます。

始めに、「１　利用状況」につきまして、入院患者数でございますが、令和７年度実績では、１日平均234.5人となり、予算に対して10.5人、前年度に対して1.6人、それぞれ減少しております。次の外来患者数でございますが、令和７年度実績では、１日平均510.7人となり、予算に対して9.3人、前年度に対して11.0人、それぞれ減少しております。次の健診者数でございますが、令和７年度実績では、１日平均53.5人となり、予算に対して

2.8人、前年度に対して0.6人、それぞれ増加しております。なお、前年度に対して営業日数が４日少なかったことで、延べ健診者数は減少しております。次の入院患者数内訳につきましては、各病床の入院患者数でございます。なお、ホスピス病床につきましては、令和８年４月から受入れ患者の対象を拡大して運用を行っております。

次に、「２　収入」の状況につきまして、医業収益では、予算に対して４億900万円、前年度に対して、１億9,100万円それぞれ減少しております。主なものとしまして、入院収益では、予算と前年度に対して、患者数及び診療単価が下回ったことで、予算に対して２億9,200万円、前年度に対して、１億3,100万円それぞれ減少しております。また、外来収益では、予算と前年度に対して患者数及び診療単価が下回ったことで、予算に対して１億円、前年度に対して5,500万円それぞれ減少しております。次の健診収益では、予算に対して2,400万円増加し、前年度に対しては同額となっております。次の医業外収益では、予算に対して２億6,300万円増加しておりますが、主なものとしまして、国からの医療分野における賃上げ、物価上昇に対する支援金で１億4,850万円、一般会計からの原油価格物価高騰等緊急対策支援金の１億84万円でございます。以上により、収入全体では、予算に対して１億2,200万円、前年度に対して１億900万円それぞれ減少しております。

次に、２ページをお願いいたします。「３　支出」の状況につきまして、医業費用では、予算に対して3,200万円減少しておりますが、主なものとしまして、給与改定に伴い給与費では増加しておりますが、材料費、経費の減少によるものでございます。また、前年度に対して9,100万円減少しておりますが、主なものとしまして、給与改定に伴う給与費では増加しておりますが、材料費及び減価償却費の減少によるものでございます。

以上により、支出全体では、予算に対して5,900万円、前年度に対して8,000万円、それぞれ減少しております。

次に、「４　収支」の状況につきまして、令和７年度実績の全体収支は５億8,600万円の赤字となり、予算に対して6,300万円、前年度に対して2,900万円、それぞれ下回っております。

次に、「５　主な指標の推移」につきまして、（２）紹介患者数・救急患者数のうち、紹介患者数につきましては、前年度に対して増加しておりますが、救急患者数につきましては、前年度に対して減少しております。

今後におきましても、物価高の影響などもあり、厳しい病院経営となることが予測されますが、引き続き良質な医療を継続して提供できるよう、病院経営の健全化に取り組んでまいります。

以上、「令和７年度経営状況について」御説明申し上げました。よろしく御協議賜りますようお願い申し上げます。

◎吉岡勝裕委員長

ただいまの説明に対しまして御発言はありませんか。

山木委員。

○山木英樹委員

おはようございます。令和７年度の経営状況「１　利用状況」についてですけども、外

来患者さんが減少しておりますが、一方では２ページ目の外来紹介患者数は令和２年度からコロナ禍以降、一時的に落ち込んでおりますけれども、それ以降は増加傾向に転じているということで、その紹介患者数の増加は市内の開業医さんであるとか、周辺の医療機関から市立伊勢総合病院が信頼されている結果だと考えております。紹介患者さんを再び紹介元へお返しするという良好な連携の循環の確立が証明されていると思っております。つきましてはその中で、令和５年、令和６年に外来患者数が減少した要因について分析をお願いいたします。

◎吉岡勝裕委員長
　経営推進部参事。

●南平経営推進部参事
　外来患者数の減少の主な原因でございますけども、まず一部の診療科におきまして医師数が減少したこと、また救急患者数の減少のほうが影響しているというふうに考えております。一方で委員おっしゃるとおり、地域の医療機関からの紹介患者数につきましては増加しているところでございまして、これは地域の診療所が初期診療を行いまして、必要に応じて当院が専門的な検査や治療を行うということで、それぞれ役割分担がきっちりできているのではないかというふうに認識をしております。今後も地域の医療機関との連携強化を図りまして、地域医療体制の確保に努めてまいりたいとそのように考えております。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　山木委員。

○山木英樹委員
　ありがとうございます。
　次に市立伊勢総合病院の加算についてお聞かせ願いたいのですけれども、まず、高齢化に伴い、認知症患者さんは増加しておりますので、認知症ケア加算についての現状をお聞かせください。

◎吉岡勝裕委員長
　医療事務課副参事。

●細谷医療事務課副参事
　当院の認知症ケア加算の現状についてでございますが、各病棟に認知症ケアの研修を受けた看護師を病棟に配置いたしまして、平成30年３月から認知症ケア加算２というものを算定を開始しております。その後ですね、認知症ケアに関する認定看護の看護師が誕生したことで、医師看護師などの多職種で認知症ケアサポートチームというものを発足させ、認知症ケア加算２から認知症ケア加算１へランクアップをいたしております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　山木委員。

○山木英樹委員
　看護師不足の状況で、認定看護師を育成するために、現場を離れて養成学校へ通うわけですけども、その際は御本人並びに現場のスタッフは人員削減、１人減るということでかなり大変だったと思います。しかし、認知症ケア加算１を取得したことによってですね、収益のアップだけにとどまらず、看護師の日々の努力が報われていることは、看護スタッフにとってもモチベーションアップにつながることだと思います。今後も引き続き、認知症患者さんのケアの充実を目指して、日々また皆さんで努力していただきたいと思います。
　次にですね、心不全の患者数は2025年に120万人を突破する、いわゆる心不全パンデミックという現状が問題となっています。心不全の状態となり入院すると、その後、入退院を繰り返すこととなります。心臓リハビリテーションというのが最近行われていますけれども、あまり一般の方には認知されていませんが、心不全の患者さんもですね、ＱＯＬを維持するということは、心不全の悪化の早期発見に大きな役割を持っております。市立伊勢総合病院におきましての心臓リハビリテーション加算についての現状を聞かせてください。

◎吉岡勝裕委員長
　医療事務課副参事。

●細谷医療事務課副参事
　当院の心臓リハビリテーションですが、令和２年１月より心大血管リハビリテーション料（Ⅰ）というものを取得いたしまして、算定を開始しております。令和７年度には入院外来合わせて延べ3,130人に、この心臓リハビリテーションを行っております。また本年６月の診療報酬改定、昨日から始まりましたけども、これにおきまして、心不全の早期治療に関する新たな診療報酬が設定されていました。多職種の医療スタッフによる心不全再入院予防チームというものも当院でも発足させ、５月中にこの届け出を行い、昨日から算定の開始をさせていただいております。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　山木委員。

○山木英樹委員
　通院での心臓リハビリテーションは患者さんにとって、医療スタッフが包括的にケアをすることで、再入院を予防することが医療費の抑制にもつながると思います。しっかりと今後また取り組んでいただきたいと思います。あとさらにもう１つなんですけど、ＣＰＸという心肺運動負荷試験という検査がありまして、それを導入することによって、患者さんの運動耐容能の評価ができるということもありますので、そちらのほうも一度検討して

いただきたいと思います。
　あと次にですね、診療報酬改定がこの６月１日から開始になっていますが、診療報酬改定後は仕組みが複雑になっておりますので、加算漏れ等の懸念はないでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　医療事務課副参事。

●細谷医療事務課副参事
　今般の診療報酬改定につきましては、令和８年の３月に告示がされております。告示以降ですね、関係の院内の部署とこれまで協議、検討を重ねてまいっております。新たな加算等で当院が算定できるものにつきましては、５月中に届け出をきちんと行い、昨日より算定のほうが開始できておるような状況でございます。また、今後も引き続き検討の必要がある項目もありますので、各部署と綿密に共有、協議を行ってまいりたいと考えております。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　山木委員。

○山木英樹委員
　ありがとうございます。加算を取るためにいろいろな業務改善が必要になって現場はかなり大変になると思いますけども、繰り返しになりますけども、加算をしっかり取れるということで、医療スタッフの努力が報われて、モチベーションアップにつながると思いますので、引き続き各部署と協議を行っていただきたいと思います。どうもありがとうございました。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　他に御発言はありませんか。
　中村委員。

○中村功委員
　ただいま経営状況についての御説明がありました。直接的な経営状況という部分ではないんですが、先々週、教育民生委員会として、藤田医科大学病院のほうに視察をさせていただきました。院内ラジオということで、患者に寄り添った広報活動ということで勉強をさせていただきました。市立伊勢総合病院に関してですね、ラジオをしろというのは経費の関係もありますのでそうは思ってないんですが、患者に寄り添った広報活動というのは何かしているのか、またあるいは今後どういうことでしていくのか、事業管理者さんも部長さんも同行されましたので、その辺の感覚も分かっていただいとるように思うんですが、その辺のお考えがあれば教えていただけますか。

◎吉岡勝裕委員長

経営推進部参事。

●南平経営推進部参事

患者様に寄り添った看護でありましたり、医療というのは最も重要なことであるというふうに思っております。当院といたしましては、そのような今こういう活動というのはしておりませんのですけども、当然一番大事なやっぱり患者さんの個々の、例えば生活背景であったり、事情であったりをですね、加味したうえで、画一的な対応ではなく一人一人個別に対応していくことというのは非常に重要であるというふうに考えております。ですので、できるだけお話をさせていただいて、例えば専門用語を使うんではなくて、一般的な言葉でお話をさせてもらって御理解をすることを確認しながらお話をさせてもらう。また、あるいは、生活でちょっと不安がある方につきましては、当院の社会福祉士のほうがお話をさせていただいて、例えば法的な制度の御説明であったり、そのようなことをしてですね、できるだけ患者様の不安を取り除いて、療養のほうあるいは治療のほうに当たっていただくということをスタッフ一同心がけながら対応していっているところでございます。以上です。

◎吉岡勝裕委員長

中村委員。

○中村功委員

医療技術というのは大事ですが、やはり寄り添った対応は、とてもこれからの経営を左右するというのか、大事なことだと思いますので、ぜひですね、その辺は力を入れて何をしろというわけではないんですが、もちろん皆さんラジオ放送というようなＮＨＫのサンドウィッチマンですか、ああいうようなラジオ放送は確かにいいなとは思うんですが、そこまでは期待もしてませんが、やはりそれに代わることはとても大事かなと思います。

それと実は先週、病院の受付のとこにお邪魔したときに掲示物が、ポスターですか、そういうのが貼ってあったんですが、非常に何を見せたいのか、何をお知らせしたいのかということで、ちょっとどういうのかな、あまりにも貼り過ぎていて、これ役所でもそうなんですが、何か上の機関からこうくると、ペラペラっと貼るような習性があるのか、病院の受付の一番入り口のところにそういうようなことがあって、ちょっと読もうとすると何かそこの前に椅子がありますので、待っている人がいると、その掲示板なんかお客さん越しに見やなあかんというような感じでありましたので、その辺の考え方というのか、現状も含めて、もしお考えがあれば教えていただきたいと思います。

◎吉岡勝裕委員長

経営企画課副参事。

●石川経営企画課副参事

現在病院では、掲示する必要性があるもの、また患者さんにお知らせしたいものを掲示しております。ただ、今回御意見をいただきましたので、改めて院内掲示物の確認をさせ

ていただきます。また他の病院の掲示方法を調査研究して、見やすいような方法に努めてまいりたいと思っております。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　中村委員。

○中村功委員
　ぜひそうしてください。今の現状ですと、普通のこういう文書のようなもんがぽんとあっても本当に字が小さくてほとんど見えないような、何をお知らせしたいのかなというのが現状だと思います。全てとは言いませんが、もしそういう細かい字であれば、チラシなりを用意して持って帰るような方法も一つの方法で、全てとは言いませんが、何かお知らせしたいのに何もお知らせになっていないというのが率直な感じでありましたので、ぜひ、よそのこともいい方法があるんであればですね、研究して、取り入れていっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

◎吉岡勝裕委員長
　他に御発言はありませんか。
　副委員長。

○辻孝記副委員長
　私から少し聞かせてください。今回の経営状況の報告をいただきました。今回は１年間の数字が出ております。決算に近い数字ということで理解をしておりますので、今回の数字を見てですね、病院事業管理者としてどう捉えているのか。前年度からも減っていく入院患者とか、外来患者も減っているという状況が見受けられるわけで、そういったところを令和８年度に対していろいろやってきているとは思うんですが、この令和７年度の実績を見て、今回どのように感じておられるのかまずお聞かせ願えませんでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　病院事業管理者。

●中村病院事業管理者
　委員の御意見、ごもっともだと思います。なかなかの厳しい状況でございます。支出のほうもやっぱり人件費の高騰もございますので、そんな中職員一丸となって頑張っておるんでございますが、入院患者様、外来患者様が少ないのも現状でございます。更なる病院地域連携も含めて、医師の確保も含めて、一生懸命職員全体で取り組んでまいりたいと考えております。現に今、いろいろな会議の中では、院長も含め各診療科のほうには声をかけさせていただいて、しっかり患者さんに寄り添うように、患者さんをしっかり診療させてもらうようにという声も個別にさせてもらっておりますので、そういう状態で今進んでおる状態でございます。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　副委員長。

○辻孝記副委員長
　ありがとうございます。管理者からもそういった話をいただきましたが、やっぱこの数字を見る限りはですね、なかなか厳しい経営状況にあるということだけは私たちも理解せなあかんなというふうに思っております。ただ、こうやって言っていてもどうしようもない話でして、何をすべきなのかというのは明確になっているんでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　経営推進部長。

●奥田経営推進部長
　委員おっしゃっていただきましたように、今後の方針というところではですね、やはり医師の確保、これがもう最重要課題というふうに思っております。あとですね、先ほどお話もありましたように、紹介患者数、それと救急患者数の受入れ、これに今後重点を置いて進めてまいりたいというふうに考えております。

◎吉岡勝裕委員長
　副委員長。

○辻孝記副委員長
　ドクターの確保というのは以前からもずっと言われてる話ですが、なかなかどうなってるか分からない状況ではあります。ただ、今言われたように救急であったり、地域の紹介の関係があったりとかですね、その辺の増やす努力というのを、先ほど表見ると少しずつ紹介患者数は増えているというのはあるわけですけども、どういった方々が入ってくるのかによっても変わってくるかと思います。もっともっと地域のクリニックのほうにですね、診療所のほうにも話をしていきながら、どんどん紹介していただくようにということで話をしていく必要があるんじゃないかなと、ちょっとこういうところが市立伊勢総合病院は得意ですから、どんどん言ってくださいというところも含めて広報していく必要があると思うんですが、その辺のお考えはあるでしょうか

◎吉岡勝裕委員長
　医療事務課副参事。

●細谷医療事務課副参事
　委員仰せのとおり、地域の開業医さんへの広報活動は非常に重要なことだというふうに認識しております。これまでも年に数回に分けまして、御紹介をいただいておる地域の開業医さんに向かって、御挨拶、訪問活動をさせていただいております。また年１回ですね、地域医療交流会と称しまして、伊勢志摩地域の開業医の先生方をお招きして、当院の近況

報告、連携交流を図るために、当院の医師と地域の先生方との交流会をさせていただいておる次第でございます。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　病院事業管理者。

●中村病院事業管理者
　あと私と院長のほうが年に２回は各大学病院さん、三重大学さん、藤田医科大学病院さん、愛知学院さんという、そこから医師を出していただいている病院には必ず御挨拶に行きまして、うちがどうしても来ていただきたい診療科の先生方にはお願いさせてもらっている状態でございますが、いかんせんお医者さんも少ない状態ですので、その中でもやっぱり足を運んでお願いさせてもらうのが一番でございますので、年に最低２回はそういう大学病院のほうにもお邪魔をさせていただいておる状態でございます。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　副委員長。

○辻孝記副委員長
　ありがとうございます。事業管理者からもね、努力されているということだけ分かりました。
　あとですね、救急患者の数が少しずつ減ってきているというのが、このグラフを見るとあるわけですが、この救急患者数は輪番制の関係で伊勢病院も２日になったというふうには思っておるんですが、日数が増えたというふうには思っているんですが、その割には救急患者の数が少ないのかなというふうには思うんですが、それは全部、日赤のほうに運ばれているというふうに理解していいのか、全体に少なかったのか、その辺は分析されているんでしょうか

◎吉岡勝裕委員長
　医療事務課副参事。

●細谷医療事務課副参事
　令和７年度につきましては、令和６年度と比較いたしまして、若干確かに減少はしております。これは全体の救急搬送患者数が少なかったというふうにもお聞きはしておるような状況でございます。ただ令和７年度につきまして、救急搬送患者数に対しての入院患者の割合というのが50％を超えているような状況でございまして、適切な、やっぱり救急医療を利用されておられる証になってきているのかなというふうには思っております。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　副委員長。

○辻孝記副委員長
　大変厳しい経営状態にあることは間違いありませんので、先ほど事業管理者からも話がありましたけども、努力もしていただきながらですね、病院経営を何とかいい方向に変えていただきたいと、このように思っておりますのでどうかよろしくお願いします。

◎吉岡勝裕委員長
　他に御発言はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
◎吉岡勝裕委員長
　御発言もないようですので、説明に対しての質問を終わります。
　続いて、委員間の自由討議を行います。
　御発言はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
◎吉岡勝裕委員長
　御発言もないようですので、自由討議を終わります。
　以上で、「令和７年度経営状況について」を終わります。
　「伊勢市病院事業に関する事項」につきましては、引き続き調査を継続していくということで、御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
◎吉岡勝裕委員長
　御異議なしと認めます。本件については引き続き調査を継続いたします。
　当局説明員入替えのため、暫時休憩いたします。

休憩　午前10時25分
再開　午前10時26分

◎吉岡勝裕委員長
　休憩前に引き続き、会議を開きます。

【学校教育に関する事項】
〔小中学校適正規模化・適正配置について〕

◎吉岡勝裕委員長
　次に、「学校教育に関する事項」について御審査願います。
　「小中学校適正規模化・適正配置について」当局から説明をお願いします。
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　それでは、「小中学校適正規模化・適正配置について」進捗状況を御報告申し上げます。

本日は、「第１期の統合」、「基本計画の見直し」の２件における進捗状況についてでございます。まず「１　第１期の統合について」（１）豊浜東小学校、豊浜西小学校、北浜小学校、東大淀小学校における「①これまでの取組」でございます。令和７年７月から令和８年３月にかけまして、ＰＴＡ、自治会、まちづくり協議会などを対象に、統合にかかる説明会と意見交換会を開催しました。また５月16日には、対象校区の全住民を対象とした意見交換会を開催し、52名の方々に御参加いただきました。「②今後の予定」でございます。令和８年７月以降に対象校区の全住民を対象に説明会を開催し、統合場所など、市の方針を説明します。その後、統合準備会の設置に向けた諸準備を進め、統合に向けた取り組みを進めていきます。なお、表には記載しておりませんが、説明会を開催する前には、教育民生委員会に事前報告させていただきます。

次に、（２）早修小学校、中島小学校、佐八小学校、上野小学校における「①これまでの取組」でございます。令和７年７月から12月にかけまして、ＰＴＡ、自治会、まちづくり協議会、学校を対象に統合に係る説明会を開催しました。「②今後の予定」でございます。ＰＴＡ、未就学児の保護者、まち協、自治会を対象に、統合時期など、今後の具体的な方向性につきまして、意見交換会を実施していきます。

続きまして、「２　基本計画の見直しについて」でございます。（１）これまでの進捗状況でございます。基本計画の見直しに当たりましては、伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画策定委員会を設置し、令和８年２月17日に第１回策定委員会、令和８年５月26日に第２回策定委員会を開催しました。第２回策定委員会におきましては、改定に係る骨子案、いわゆる改定に向けての考え方について検討していただき、現在の計画の形を踏襲しながら、伊勢市の状況を踏まえ改定していくこととなりました。また、改定の考え方としまして、大きく３つの検討を行っていただきました。１つ目は、適正規模の基準でございます。この基準におきましては、少子化の進行が早く、国が示しております、望ましい学級数の確保が難しい状況となっているため、伊勢市として望ましい学級数に準じた基準を設けることが必要であるということ。２つ目は、学校統合を実施するに当たり、これから統合の検討を始める契機の基準を示すこと。３つ目は、社会情勢の変化や少子化の進行に対応できるよう、適正規模化・適正配置の基となる基本計画と、具体的な統合の形を示す実施計画の２段構えの計画としていくこととし、実施計画については、必要に応じて随時策定、見直しができる柔軟な計画へ見直すことの検討がされました。

（２）今後の予定でございます。第２回策定委員会でいただいた意見を参考に、基本計画素案を作成し、策定委員会を複数回開催し、協議いただき、令和８年度中の改定を目指します。また、計画素案につきましても、早い段階で教育民生委員会へお示しさせていただき、御意見を伺いたいと考えております。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

◎吉岡勝裕委員長

ただいまの説明に対しまして御発言はありませんか。

池田委員。

○池田覚委員

何点か教えてください。小中学校の適正規模化・適正配置につきましては、少子化や学校規模の課題を踏まえますと、子供たちにとってよりよい教育環境を確保していくため、一定の取り組みは必要であると私自身は考えております。その上で地域にとって学校は大変大きな存在でもありますので、丁寧な説明と理解形成が重要であると思っております。先ほど、これまでの取り組みについて説明をしてもらい、段階的に進めておられることは理解いたしました。特に豊浜東小学校、豊浜西小学校、北浜小学校、東大淀小学校の４校につきましては、これまで複数回の説明会や意見交換会を開催されているとのことですけれども、その場でどのような意見や質問があったのか、その状況を確認させてください。

◎吉岡勝裕委員長
学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
豊浜東小学校、豊浜西小学校、北浜小学校、東大淀小学校の４校につきましては、防災上のですね、安全面の確保であるとか、児童数減少への懸念から、統合の早期実現を求める意見が多くありました。また、統合先の候補地としまして、桜浜中学校やその隣接地はどうかという意見や、桜浜中学校の生徒数が減少しておりまして、空き教室が出ておりますので、そういった既存の施設を有効活用したら、効率的かつ合理的ではないかというような御意見もいただいております。
また一方で、統合によります通学路の距離の延長や、通学路の安全性についても、御心配の意見もいただいておりますので、これらの意見を踏まえながら、慎重に検討を進めていきたいと考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
池田委員。

○池田覚委員
学校統合は必要な取り組みであるとしても、地域や保護者の皆さんの不安をできるだけ和らげながら進めていくことが大切だと考えております。その意味で、今後予定されている全住民対象の説明会では、教育委員会としてどのような姿勢で臨まれるのか、お考えを教えてください。

◎吉岡勝裕委員長
学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
今後の予定といたしましては、これまでいただきました保護者や地域の皆様からの御意見を踏まえまして、統合場所など具体的な事項につきまして、市としての方針を決定していきたいと考えております。その結果を教育民生委員会のほうにもお示しさせていただきまして、御意見いただき、その後、保護者をはじめとした住民の皆様に丁寧に説明し、御

理解いただけるように努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　池田委員。

○池田覚委員
　今後の説明会では統合場所などの市の方針を示されるとお伺いしました。住民の皆さんにとっては、どこに統合するのかという点が最も関心の高い部分の一つだと思いますので、その点について丁寧にぜひ説明していただきたいと思いますけれども、現時点でのお考えをお聞かせください。

◎吉岡勝裕委員長
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　統合場所につきましては、意見交換会の中でもたくさん意見をいただいておりますので、それらの意見も参考に、今後の児童、生徒数の推移であるとか、既設施設の有効活用など、慎重に検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

◎吉岡勝裕委員長
　池田委員。

○池田覚委員
　統合に賛成の立場であっても市民の皆さんはこれから何がどの順番で進むのかを知りたいと思います。そこで、今後の流れについて、説明会の後にどのような段階を想定しているのか改めて教えてください。

◎吉岡勝裕委員長
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　今後につきましては、市の方針が決まりましたら、住民説明会後に統合に向けた準備会を立ち上げていく予定でございます。そちらのほうには、保護者の方や地域の方、学校関係者の皆様に協力いただき、統合に向けて取り組みを進めていく形となります。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　池田委員。

○池田覚委員

実際に統合を円滑に進めていくためには、準備段階が大変重要だと思います。その意味で、今後設置に向けて準備される統合準備会は大きな役割を果たすものと考えますが、教育委員会としてはどのように位置づけておられるのか教えてください。

◎吉岡勝裕委員長
学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
統合準備会につきましては統合に向けた具体的な課題を整理し、関係者と調整を進めるための重要な場になると考えております。これまで設置されてきた統合準備会におきましては、学校関係者、ＰＴＡ、自治会、就学前の児童の保護者などで構成されておりました。資料の行程表では令和８年以降、継続的に取り組みを進めていくと位置づけさせていただいておりますので、今後も必要な体制や進め方について、丁寧に整理していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

◎吉岡勝裕委員長
池田委員。

○池田覚委員
ありがとうございました。
次に早修小学校、中島小学校、佐八小学校、上野小学校についてお伺いいたします。こちらについても、一部の小学校においては複式学級の継続が見込まれるとのことで、今後の方向性を考えていく必要があると思います。現在の取り組み状況と、今後どのように進めるのかをお聞かせいただきたいと思います。

◎吉岡勝裕委員長
学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
早修小学校、中島小学校、佐八小学校、上野小学校につきましては、複式学級の継続が見込まれる小学校があることから、現在具体的な方向性について検討を進めておるところでございます。これまで令和７年４月から12月にかけまして、学校統合の説明会を14回開催して72名の方に御参加いただいております。今後はＰＴＡや未就学児の保護者、まちづくり協議会、自治会を対象に統合時期などの具体的な方向性について意見交換会を開催していきたいと考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
池田委員。

○池田覚委員

個別の統合を進めていくことと基本計画全体を見直していくことはどちらも大切だと思います。その２つがしっかり整合を取りながら進んでいくことが市民の安心にもつながると思っております。第１期の統合を進めることと、基本計画見直しの進捗と今後の見通しについて教えてください。

◎吉岡勝裕委員長
学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
基本計画の見直しにつきましては、骨子案の検討をいただいたところでございます。現在計画にありますように、第１期の統合につきましては、複式学級が継続しているとともに、災害に対する児童、生徒の安全安心の確保といった観点から、現計画のとおり進めさせていただきまして、第２期の統合につきましては、第１期の終了のめどが立ったこともありまして、改めて検討を行いまして、基本計画の改定を進め、令和８年度中に完了を目指しているところでございます。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
池田委員。

○池田覚委員
学校統合は地域にとって寂しさもある一方で、子供たちの将来を考えれば、避けて通れない課題でもあると思います。だからこそ必要性をしっかりと伝えながら地域の理解を得て進めていくことが大切だと考えております。最後に、今後の取り組みに向けたお考えをお聞かせください。

◎吉岡勝裕委員長
学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
学校はですね、子供たちが学び、育ち、友と出会う大切な場であると同時にですね、地域の皆様にとっても、長年親しまれてきたかけがえのない存在であると考えております。今後も子供たちの教育環境を第一に考えまして、保護者や地域の皆様に必要性を丁寧に説明させていただきまして、御理解と御協力をいただきながら取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
池田委員。

○池田覚委員
どうもありがとうございました。ぜひその方向で進めてください。私の質問は以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　他に御発言はありませんか。
　谷口委員。

○谷口久美委員
　少し具体的にはなってしまうんですけども、この上野小学校の統合につきましては、これまでは複式学級の継続が見込まれる場合というふうになっていたと思うんです。今回はもうはっきりと計画の中で、早修小学校、中島小学校、佐八小学校、上野小学校というふうに、４校でというふうになっておりますけども、これはもう決定で進めていくということで理解して間違いないということでよろしかったですね。

◎吉岡勝裕委員長
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　現在の計画におきまして、上野小学校は複式学級の継続が見込まれる場合は、３小学校の統合校と統合するとなっております。令和10年度には複式学級が発生しまして、その後継続していく見込みとなっておりますので、現在、保護者や地域の方に現状の説明会を行っているところでございまして、御理解いただけるよう丁寧に対応していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

◎吉岡勝裕委員長
　谷口委員。

○谷口久美委員
　上野小学校も統合していくという形で進んでいくということで理解させていただきました。そうしますと、これまで早修小学校、中島小学校、佐八小学校のほうにも、今まで統合の話をしてらっしゃったと思うんですけども、それは３校での統合という話になっていて、上野小学校は統合するという話の説明にはなってないのでしょうか。そのあたりちょっと教えてください。

◎吉岡勝裕委員長
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　他の３小学校の説明会におきましても、計画の内容はしっかり説明させていただきましたので、上野小学校は入るかもということは理解していただいていると考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　谷口委員。

○谷口久美委員
　そうしましたら４校のほうなんですけども、まだ具体的にはスケジュール等決まってないと思うんですが、ただいつ頃までに統合するとか、大まかな目標があると思いますので、公表できる部分で結構ですので、いつ頃を最終目標としてやっていくのか、もし今の時点で公表できるのがあれば教えてください。

◎吉岡勝裕委員長
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　統合に向けましての期間が、今まで４年から５年かかっている現状がございまして、やはりそれを始めるに当たりましては、地域の皆様、保護者の方々の御理解と御協力が必要でありますので、それが調い次第開始させていただくという形で考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　谷口委員。

○谷口久美委員
　それが調ってからは４、５年後という形になるということで、はっきりした年度は分からないということで理解させていただきました。
　そうしましたら、この統合の話になりますと、どうしても廃校になった学校の利活用という問題も併せて起こってくるかと思うんですね。そのときに地域の皆さんから御意見を伺う中で、学校の利用とかそういったことの意見というのも併せて伺っていくのか、そのあたりを教えてください。

◎吉岡勝裕委員長
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　統合後の学校につきましては、施設類型別計画にあります学校の管理方針を基に関係部署と連携して検討してまいりたいと考えております。ただですね、地域の方や利用者の意見につきましても、事前にお聞かせいただくことは可能かと考えておりますので、そのような方向でも検討したいと考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　谷口委員。

○谷口久美委員
　やはりその学校がなくなると、そこの地域のコミュニティーとか交流の場、そういったものもなくなることもあると思いますので、そういった場がなくならないように、地域の交流の場として活用できるように、御理解いただく方法かと思いますのでお願いしたいのと、それとちょっとここでお伺いしていいかどうか分からないんですけども、やはり施設の人員との関係で、活動場所が少なくなった、特にレクダンスとかフォークダンスとか、吹奏楽、合唱で音の出る練習会場がなくなって、特定の施設の特定の場所に集中していてなかなか取れないというふうにあります。その中で、こうした学校の活用、地域の方々が活動できる、にぎわいの創出にもなる、高齢者の活動する場にもなるとか、いろんな方法もあると思いますので、そういったことも併せてトータル的に考えて進めていくという考えはございますでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　資産経営部参事。

●丸山資産経営部参事
　今もですね、廃校のほうたくさんございまして、地域の方に御利用いただいている部分もございます。ただですね、建物につきましては建築基準法でありますとか、消防法でありますとか、利用方法によってですね、規制がかかってございます。当然廃校につきましては、学校として建築されたものでございますので、その地域の方が集まってみんなで何か催しをするとか、そういったことになりますと用途が変わってくるということになりますので、違う用途にするに当たっては非常に改築する、金額のほうがかかってくる、お金が非常にかかってくるというところで、ちょっとなかなか市としてもそこら辺はかけづらいなというのがございますので、今のところですね、学校という用途のままで御利用いただける範囲で御活用いただいているという状況でございますので、今後もですね、その範囲の中で御活用いただくような形でお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

◎吉岡勝裕委員長
　谷口委員。

○谷口久美委員
　そういった生涯学習の活動とか、何か現状のままで使えるように工夫した使い方、またお金をかけずにできるような方法、そういったことも考えていただきながら、やはり利活用できるようなことも併せて考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　他に御発言はありませんか。
　楠木委員。

○楠木宏彦委員

この基本計画の見直しのところについてお聞きしたいと思うんですが、先ほど今後の考え方として、望ましい学級数、これについて伊勢市として独自に基準を考えていく必要があるんじゃないかというようなこと、２つ目が統合を始めるということに当たってその契機、いわばこうなったらもう統合を進めなくちゃいけないというそういう基準ですよね、それをどう決めるのかと、３つ目がそれぞれの今後の学校の実施計画については柔軟に考えていくと、このような３つの点を報告していただいたと思うんですけども、まず私一番感じるのは、これまでにも随分議論をしているんですけども、今の話の中でも随分出ましたが、複式学級ですね、これが生まれる、あるいは生まれそうだというので統合を進めるみたいなことを、今のこの契機のところにつながってくると思うんですけれども、それはどうなのかと、複式学級が絶対悪なのかということをすごく思うんですよね。かえってそれによって少人数教育が可能になるというようなこともあると思うんです。ちょっと調べてみましたら、宝塚市でですね、例えば、生徒数が少ないけれども地理的に今後統廃合が難しいということで、複式学級で運営していくという方針を出して進めているというようなところもあります。この宝塚市の市長がですね、里山地域の学校なんだけれども、子供たちはみんな元気でとても仲が良いと、良い雰囲気の学校だと、何よりみんな地元愛が強い、２学年が一緒になって学ぶ複式学級も多いけれども、兄弟姉妹のように責任感や背中を見て育つというそういった良い関係になっていると、このようなことをＸにも投稿もしていただいてるわけですけど、こういった実践もあるんですよね。こういった少人数学級あるいは複式学級的なことについては、国内においても、あるいは国際的にも随分こういったことについて実践例もあって、現実にも進められているんですけれども、これについてはどうしてもやらなくちゃいけない絶対悪なのかということですごく疑問があるなと思うんです。

それからもう一つ、クラスサイズを小さくするということは随分、この間進められていて、市民の方々、保護者の方々、ＰＴＡあるいは教職員組合などでも随分意見が挙がっていて、それについては進めなくちゃいけないということで進めているわけですけども、その時にある教育の研究者の声としてですね、学級サイズも大事だけれども、学校サイズも大事なんじゃないかと、あまりにも巨大な学校になってしまうと子供同士がお互いに全然見知らぬ人たちばかりになってしまうということで、やっぱりそういうふうなことでは教育環境として問題があるんじゃないかというようなことを提起していただいている方もいらっしゃるんですよね。

だからこういったことも含めてですね、今後調査研究をしていく必要があると思うんですけども、特に複式学級になるからどうということについてはもう少し研究する必要があるかなと思うんですけども、こういった点について、今後の方針の基本としてこういったことも含めて研究していく方向があるのかどうかについて伺いたいと思うんですが。

◎吉岡勝裕委員長

学校教育課副参事。

●淺井学校教育課副参事
　委員仰せのとおり、複式学級が言われたようないろんな意見があると思います。複式学級は先ほど御意見いただいたように学び合える良さとか少人数の教育というような利点もございます。また、反対には意見交流、学びが深まるという点では、少し考えるべきところもあるのかなと思います。先ほどいただいた意見を基に、今後も研究を進めていきたいと考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　楠木委員。

○楠木宏彦委員
　先ほどの報告でかなりいろんな基準についてこれからも再検討していかなくちゃいけないというようなことが出ておりましたので、そういうテーマとして考えていっていただければなと思います。
　それからその前提の問題としてもう一つですね、人口減が進んでいるから統合だということなんだけれどもただ、地域的には増えているところ、あるいは今後増える可能性があるところもあると思うんですね。そういったことも含めて、今後この統廃合の計画についてそういったことはどのように加味していくのかについて伺いたいと思うんですが。

◎吉岡勝裕委員長
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　市全体としまして人口減少が進行している状況であることは把握しております。また、地域間におけます人口の増減につきましては、教育委員会としましては各地区ごとの児童、生徒数の推計値を算出しておりまして、それを基に今現在、基本計画の見直しの際に参考資料として活用している状況でございます。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　楠木委員。

○楠木宏彦委員
　今後さらにいろんな要素があると思いますし、新しい住宅ができるだとかそういったこともあったりしますし、そういった全体を含めてもう既にある学校だけで考えるんじゃなくてもっと別の形、校区のことなんかも含めてですね、やっぱり全体として考えていく必要があるのかなと思うんですね。そんなことも含めてまた今後、先ほど３つの視点を教えていただきましたけれども、今後の考え方についてですね、検討していただければなと思います。
　次にですね、もう既に統合が完了してるところがありますよね。小学校が２か所、それから中学校は１か所ありますけれども、こういった学校でそこの児童、生徒にとって、そ

れから保護者にとって、先生方にとって、そしてまた地域にとってどのような影響を与えているのか、このことについてやっぱり今後進めていく上で、また新しい方針を立てていく上で、どういった問題点があったのか、どういったメリットがあったのかということについて、きちんと見ていく必要があると思うんですけども、そこら辺については何かそういったことの調査については何か考えていただいてますでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　学校教育課副参事。

●淺井学校教育課副参事
　これまでの統合により評価される点といたしましては、全国学力学習状況調査の児童、生徒質問紙の中に「児童、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。」という質問項目がございます。どの学校においても統合後のほうが肯定的な回答をする児童の割合が増えております。このことから、統合し、共に学ぶ仲間が増えたことで、授業等で意見の交流の機会が増え、多様な考え方に触れることができ、地域にとっても、児童、生徒にとっても、保護者にとっても成果であると考えております。以上です。

◎吉岡勝裕委員長
　楠木委員。

○楠木宏彦委員
　今ね、一つのデータを示していただいたわけですけれども、それ以外のことに、例えば子供同士の関係はどうなっているとか、あるいはいじめの問題、不登校の問題、こういったものがどのように変化してきているのかというような問題もあると思うんですね。こういったことについて、やはり統合前と統合後でどのように変化しているのかについてですね、数字的な統計も必要なんですけれども、それに合わせてやはり現場の先生方の現場感覚ですよね、そういったものでどういうふうに感じているのかなんかについてもですね、アンケートなり何らかの形で調査していく必要があるんだろうと思うんですけども、その点について何か計画はありますか。

◎吉岡勝裕委員長
　学校教育課副参事。

●淺井学校教育課副参事
　不登校の児童、生徒数ですが、統合前年度と統合後の初年度との結果によっては、大きく増加しているというような変化は見られておりません。スクールバスなどを使って登校している児童もおりますが、帰ってから地域外のところへ遊びに行くというような声も学校から聞かれております。学校としましては、やはり統合されることで少し遠方になるというようなことで、スクールバスなども使って、バスの時間があるものですから、指導に

影響があるのではないかというようなことも不安には思われたところがあったとは思うんですが、そのようなことは今聞かれておらなくて、工夫することでそれまでの時間を有効活用するということで問題なく行えると聞いております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　楠木委員。

○楠木宏彦委員
　今言われたのはですね、例えば担任の先生との交流の時間がある程度おしりが決まっているもんだから限られてしまうとか、あるいはスクールカウンセラーに相談に行きたいんだけども、そういう時間がなかったとかいうようなことなんかもあるんじゃないかということも感じますので、そういったことも今後丁寧に調べていただいて、そういった問題が起こらないようにしていただきたいと思うし、それを今後の統廃合の計画に盛り込んでいっていただければと思います。それから地域への影響、例えば地域の祭りだとか、あるいはイベントだとかこういったことについてもいろいろあると思うんですけど、そういったことについても学校として、あるいは地域からもそういった研究も必要なのかなと思うので、そういったことについてもですね、今後の方針見直しに当たって含めていっていただければと思います。
　最後なんですけども、これは学校教育というよりも学童クラブのほうのことなんですけれども、統合されたことによって、それまであった学童クラブが合併したりとか、あるいはそれぞれのところでそのまま存置しているとかいろいろあると思いますが、それは地域的な問題もありますし、スクールバスを活用するかという問題も出てきますから、そういった問題あると思うんですけども、今後学童クラブについてはどのような方針で進めていくのかについて伺いたいのですが。

◎吉岡勝裕委員長
　子育て応援課長。

●奥田子育て応援課長
　小学校が統合される場合の放課後児童クラブについてでございますが、先ほど委員からも様々な状況を御紹介いただきました。基本的な考え方といたしましては、利用者のニーズをお聞きすること、また放課後児童クラブの運営主体の方の意見も聞きながら、教育委員会事務局とも連携して、統合の取り組みに合わせて調整を図っていきたい、このように考えております。よろしくお願いいたします。

◎吉岡勝裕委員長
　楠木委員。

○楠木宏彦委員
　伊勢市の学童クラブって運営主体が様々なんですよね。株式会社であったり、ＮＰＯが

あったりとか、あるいは父母会だったりとか、そういったこともあって非常に今後こういった問題も出てくると思いますので、丁寧に事業者の考え方、それから子供たちの意見、それから保護者の送り迎えの問題ですよね、こういったものも出てくると思いますので、そういったことも丁寧に考えながら進めていっていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

◎吉岡勝裕委員長
他に御発言はありませんか。
宮﨑委員。

○宮﨑誠委員
私から１点だけちょっとお願いをできればと思っております。これまでもたくさんの委員から御質問いただいておりますが、まず資料の作成の方法でですね、２ページにあります基本計画の見直しについてということで、口頭のほうで考え方というのを３つ示していただきました。これはですね口頭でいただくよりは、資料にしっかりと作り込んでいただいて、我々委員会のほうにお示しをいただいたほうが私たちもその考えについての質問がしやすかったりとか、そういったところも見据えて今後の資料の作成については考えていただきたいと思うんですが、そのことについてだけ回答いただけますでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
委員言われるように、資料がちょっと不足している部分があったかとは感じておりますので、今後提出の方法とかですね、関係部署と相談しながら進めていきたいと考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
会議の途中ですが、11時10分まで休憩いたします。

休憩　午前11時00分
再開　午前11時07分

◎吉岡勝裕委員長
休憩前に引き続き会議を続けます。
他に御発言はありませんか。
山木委員。

○山木英樹委員
先ほどの谷口さんの質問で上野小学校のほうも４校で統合するという話をお伺いしまし

たけども、適正化で子供の人数のクラスだけで考えていくとそれになるのかと思いますけども、佐八学区、上野学区は少し子供の数が多くなりつつある傾向なところもあり、できれば地域にとって学校を残してもらうということは、地域の存続につながるかと思うんですけども、一つ提案というか、ありまして、小規模特認校制度というのがありまして、他の学区から統廃合が進んでいる学校の地区に関して、そこへ通学するという制度があるので、そういったところもありますので、今現在矢持はあちらの奥にみどり保育園というのがありまして、やっぱりそれも向こうの地区の子供たちだけではなくて市街地のほうから通園するというお子さんもいますので、今伊勢の現状からしますと、小俣地区とかというのは子供がすごく多い地区でありますので、そこからうちのほうは大人数のクラスはちょっと向いてないなという子がもしそういった小規模の小学校で生き生きと学校生活を送れるというようなことがありましたら、一度小規模特認校制度というのも検討していただいて、適正化の数だけではなくて、地域に残してもらうというそういう選択肢とか、そういうのを一回検討していただいた上での統廃合、適正化というのを進めていただけたらなと思いますので、一度その辺の御検討というか、そういうのをしていただけたらなと思います。

◎吉岡勝裕委員長
　学校教育課副参事。

●淺井学校教育課副参事
　小規模特認校制度については昨年度、中村委員よりも御意見をいただいたところでございます。近隣の市町でも統合が進んでいるところがある状態でございます。現在、先進校の様子を見ながら研究を進めておりますので、引き続き研究を進めていきたいと考えております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　よろしいですか。

○山木英樹委員
　またぜひ検討をお願いします。

◎吉岡勝裕委員長
　他に御発言はありませんか。
　中村委員。

○中村功委員
　私から１点だけ、豊浜東小学校ほか３校ですね、この（１）の統合に比べて、この（２）の早修小学校以下３校の取り組みが同じ令和７年７月に学校統合説明会をしているにも関わらずですね、次の令和８年２月から早修小学校ほか３校の取り組みが遅れているように、遅れとるんやなこれ、同じスタートとすれば、その理由というのは何かあるんでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　豊浜東小学校ほか３校につきましては、以前からお話をさせてもらっておりまして、合意形成がされていた部分もございましたので、また災害のこともございまして比較的早くやってほしいという御意見がありますので進んでいる状況でございます。また、早修、中島、佐八小学校のほうにつきましても３校での合意形成は以前にされていたんですが、今回上野小学校というのが複式学級の継続が見込まれるということで、新たに御説明をお伺いしているところもございまして、ちょっと丁寧に対応している状況でございます。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　中村委員。

○中村功委員
　よく分かりました。ただですね、いわゆる意見交換会へ入ってないわけですよね、早修小学校以下の方は。意見交換会が行われないということがそんなに半年も動きがないという形で見えるんですが、先のことは別にしても、意見交換会ぐらいはできるんじゃないのかなというふうに思うんですが。やっぱり４、５年かかるということになると、今１年生の子がもう上がってくという話になりますので、その辺は意見ぐらいは聞けたらいいのになとそういうふうに感じるんですがいかがですか。

◎吉岡勝裕委員長
　学校施設整備課長。

●北村学校施設整備課長
　確かに委員仰せのとおりですね、意見交換会は可能であるかと考えておりますが、やはり４小学校で足並みをそろえてですね、意見交換会のほうを開催させていただきたいと考えておりましたので、今現在このような状況になっておりますので、今後また早期に着手できるような方法を考えていきたいと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

◎吉岡勝裕委員長
　中村委員。

○中村功委員
　分かりました。意見交換会は早修小学校、中島小学校、佐八小学校には、準備が整えばできるんだけども、上野小学校についての意見交換会までのところまでは至っていないと、こういう理解でさせていただきます。同じようにですね、スタートが一緒だったので、ど

んどん遅れていくような、この表の取組も今後の予定も含めて、日程まで書かれているのに、上野小学校のほうは、下が全然文言だけですので、今後よろしくお願いしたいと思います。

◎吉岡勝裕委員長
　他に御発言はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
◎吉岡勝裕委員長
　御発言もないようですので、説明に対しての質問を終わります。
　続いて、委員間の自由討議を行います。
　御発言はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
◎吉岡勝裕委員長
　御発言もないようですので、自由討議を終わります。
　以上で、「小中学校適正規模化・適正配置について」を終わります。
　「学校教育に関する事項」につきましては、引き続き調査を継続していくということで、御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
◎吉岡勝裕委員長
　御異議なしと認めます。本件につきましては引き続き調査を継続いたします。

【保健福祉拠点に関する事項】
〔健康福祉ステーションの利用状況について〕

◎吉岡勝裕委員長
　次に、「保健福祉拠点に関する事項」について御審査願います。
　「健康福祉ステーションの利用状況について」当局から説明をお願いします。
　福祉総合支援センター長。

●谷福祉総合支援センター長
　「健康福祉ステーションの利用状況について」御説明いたします。資料３を御高覧願います。
　令和５年５月８日に開設いたしました健康福祉ステーションの令和７年度の利用状況につきまして、令和６年度と健康福祉ステーション開設前の令和４年度との比較を含めて御説明いたします。
　まず、「１　利用延べ人数」でございます。健康福祉ステーション５階から７階全体で６万3,451人の利用があり、５階から７階全体の利用延べ件数は、令和６年度より増加している状況です。健康福祉ステーション開設前の令和４年度との比較ですが、こちらも５階から７階全体の利用延べ人数は増加している状況で、特にこども発達支援室、ママ☆ほっとテラスは大きく増加しております。

次に「２　相談延べ件数」でございます。来所、電話など合わせまして１万9,339件の相談がございました。こちらにつきましても全体で見ますと、令和６年度と比較し増加しております。ママ☆ほっとテラスは妊婦相談が増加したことで、増加が大きくなっております。福祉総合支援センターの8,810件につきましては、次の「※福祉総合支援センターの相談種別」の表を御覧ください。「高齢・障がい」では、介護の相談や精神的な不安に関する相談、「子ども」では、養育が心配な家庭に関する相談、「生活困窮」では、住まいや就労の相談を含めた生活に関する相談が多くを占めております。なお、複雑化・複合化した課題を抱えた相談については、分野を越えて関係機関と連携・協働し、支援をしております。次に、令和４年度との比較でございます。中央保健センターにつきましては、母子保健部門であるママ☆ほっとテラスの相談を合わせまして、令和７年度は6,633件、令和４年度の5,396件から122.9%の増加となりました。６階のママ☆ほっとテラスは、体験指導室などの施設の充実、５階中央保健センターの乳幼児健診、６階のキッズ☆もっとテラスや７階のこども家庭センターの事業などと連携することで、より多くの子育ての悩みを抱える方々へのアプローチが可能となっております。こども発達支援室につきましては、専用の発達検査室や相談室を整備したこと、健康課が実施する発達検査をこども発達支援室へ移管し一元化したことなど、相談支援体制を強化したことにより、相談件数は増加しております。福祉総合支援センターにつきましては、福祉の分野を越えた相談拠点を開設したことにより、多くの市民からの相談とともに、支援機関からの相談も増加し、連携体制がより強化されております。また、開設から３年が経過し、「高齢・障がい」、「子ども」、「生活困窮」など、複雑化、複合化した課題を抱える市民への対応に加え、再犯防止に係る取り組みや、企業と連携した就労支援体制など、包括的な相談支援体制を活用した取り組みも進んでいると感じております。６階のキッズ☆もっとテラスは、健康福祉ステーション開設と同時に新設した施設のため、令和４年度との比較はございませんが、市の子育て支援の中核的施設として、子育て相談や情報発信、施設内の他機関との連携強化のほか、市内各子育て支援センターを巡回して、利用者支援専門員による相談を実施しております。また、駅前の子育て支援センターにおいては、保育所などの入所申し込みを随時受け付けており、保護者の方の利便性が向上していると考えております。施設整備前と比べ、各施設の窓口の利用者や相談延べ件数が増加していることにより、より多くの方々への相談支援に取り組むことができたと考えております。

「３　就労相談」についてです。こちらは令和６年度と比較し、微増となっておりますが、令和４年度と比較しますと大きく増加しております。今後もハローワーク職員などと連携し、支援に努めてまいります。説明は以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

◎吉岡勝裕委員長

ただいまの説明に対しまして御発言はありませんか。

中村委員。

○中村功委員

開設から３年ということで、非常に利用者数、相談件数も多く、どっかでは止まるんで

しょうけども、なかなかこのステーションそのものが活動的に動いているなというのが数字を見ても理解いたします。そこでですね、我々も行政視察ということで行くんですけれども、先進的なところへ行くんですが、逆にこの伊勢市の健康福祉ステーションに議会あるいは行政からも視察なんか多分あると思うんですが、どれぐらい人気というのか、あるんでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　福祉総合支援センター長。

●谷福祉総合支援センター長
　令和５年から７年の３年間においてですけれども、行政機関からの視察は25回172人の視察に来ていただきました。議会関係の方からは、17回138人の方々に来ていただいております。その他市民団体とか、その他も含めますと118回約2000人ぐらいの方が視察のほうにお越しになってみえます。

◎吉岡勝裕委員長
　中村委員。

○中村功委員
　大変多いなと、その対応も大変かなと思うんですが、どのようなところを、全体的には福祉一般的になるんですが、どのようなところを特に興味を持っておられるんでしょうか。売りがどういうとこがあるのか。

◎吉岡勝裕委員長
　福祉総合支援センター長。

●谷福祉総合支援センター長
　全体にはこの118回2,013人、約2,000人の中ではやっぱり健康福祉ステーションが新しくできたというところで、そこの計画が内容としまして多いんですけれども、行政機関の方、そして議会の方々からの視察の目的としましては、やはり健康福祉ステーションの設置の経緯でありましたりとか、あとここに拠点として集まっているというところで連携の方法であったりというところが一番多いような状況でございます。その他はこども家庭センターとして、いじめの相談アプリも行っておりますことから、そちらのいじめを含めたこども家庭センターの児童福祉と母子保健の連携のことについての視察でありましたり、あとは孤独孤立対策、また子育て支援センター、キッズ☆もっとテラスという新しい、ボーネルンドの整備も整いましたので、そちらで視察に来ていただける方が多くございました。

◎吉岡勝裕委員長
　中村委員。

○中村功委員
　大変本当にうれしいことだと思います。これからもですね、もっともっと新しいことにも取り組んでいただいて、もっともっと自慢というか、発信できるように、それが市民にとって便利な場所となると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。

◎吉岡勝裕委員長
　他に御発言はありませんか。
　楠木委員。

○楠木宏彦委員
　この表を見せていただいて、まず一つ気がついたのは、キッズ☆もっとテラス、保育課ですね、これが２万８千人と、利用人数がですね、これは非常に多くなっているなというようなことも気づいたんですけれども、こういう点でやっぱり駅前にはこの施設を新しく建設したということは大きな意味があるのかなと思うんですけども、それ以外にですね、こども発達支援室の利用者が令和４年に比べて2.7倍ほどになっていると、非常に増えているんですが、子供に発達の課題を持った方が増えているというふうな部分もあるんだろうと思うんですけど、利用しやすくなったっていう面もあると思うんですけどこの辺についてはどのような分析をしていただいているんでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　こども発達支援室長。

●西川こども発達支援室長
　令和４年度から増えた要因なんですが、説明のほう、先ほど申し上げたとおりちょっと重複するところがあるんですが、駅前のほうに移転してきた際に、以前の八日市場町の福祉健康センターのところにあった時なんですが、そちらの場合、こども発達支援室という部署はその時からあったんですが、専用の相談室がそのときちょっとなくてですね、部屋のほうを借りて相談対応をさせていただいていたところがありましたので、こちらの令和５年度に駅前の拠点のほうに移転した際には、その専用の部屋のほうが整備のほうをされましたので、部屋の確保とかその辺の心配することなく相談対応することができましたので、相談のほうがすぐ対応できたというところが増加した要因となっております。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　楠木委員。

○楠木宏彦委員
　そういった点で増加したということですけれども、ただ中身ですよね、結局これが増え

たというのは、いわば潜在的な需要が見えてきたという部分あると思うんですけども、そういった方とか含めて特に何か今、子供の発達の問題について気がかりな面というか、何か特徴的なところについては何かあるんでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　こども発達支援室副参事。

●平井こども発達支援室副参事
　議員仰せのとおり、相談件数といたしましては近年、小学生以上の相談も増加しております。令和３年度までは、就学前の相談が半数を占めておりましたが、それ以降は小学生以上の相談も増えているという現状にございます。

◎吉岡勝裕委員長
　楠木委員。

○楠木宏彦委員
　つまり小学校行ってからですね、そういったこの問題、発達障がいだとかそういった問題が発覚してくるみたいなことなんかもあって、あるいはそういったことについての診断だとか調査が進んでいるというのもあって、ある意味非常に単に増えた、こういう発達障がいが増えたということではなくて、それが明確になってきたということで、それでやっぱり課題がはっきりさせられるということもあると思いますので、そういう面で今後確かに仕事が大事だと思いますので、またよろしくお願いをしたいと思います。
　それからもう一つですね、ママ☆ほっとテラスについてこれも4.5倍になっているということなんですけれども、先ほどの説明にもありましたけれども、特に何か特徴的なこの利用者についての特徴的なものはありますでしょうか。

◎吉岡勝裕委員長
　健康課副参事。

●藤田健康課副参事
　ママ☆ほっとテラスにて母子健康手帳を交付させていただいていますが、全妊婦の方に相談や教室施設の案内等を行うことで、認知度が向上して、妊産婦のニーズに沿った教室や交流会の開催などにより、身近な相談先として定着したことだと思われます。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
　楠木委員。

○楠木宏彦委員
　行政と非常につながりやすくなったっていう面で、非常に大きな進化と思いますのでま

た今後ともよろしく、非常に大事なことですよね、よろしくお願いします。

◎吉岡勝裕委員長
　他に御発言はありませんか。
　副委員長。

○辻孝記副委員長
　私から少しだけ１点だけ確認させてください。今日の報告はあくまでもステーションの利用状況ということがありますが、付随しましてあそこの駅前のセンターにはですね、駐車場を使うという格好になるかというふうに思っております。駐車場の料金について令和５年から始まったわけですので、年度ごとの支払っている料金というのは幾らになってるのか教えていただけますか。

◎吉岡勝裕委員長
　暫時休憩します。

休憩　午前11時29分
再開　午前11時29分

◎吉岡勝裕委員長
　休憩前に引き続き会議を続けます。
　福祉総合支援センター長。

●谷福祉総合支援センター長
　駐車代金でございますが、令和５年度は755万3,000円、そして令和６年度は788万9,800円、そして令和７年度につきましては796万4,300円が来庁者用としまして駐車場代金がかかっております。

◎吉岡勝裕委員長
　副委員長。

○辻孝記副委員長
　分かりました。ありがとうございます。そうすると利用台数というのは分かるんですかね。台数までは分からないですか。

◎吉岡勝裕委員長
　福祉総合支援センター長。

●谷福祉総合支援センター長
　令和５年度は資料手持ちにないんですけど、令和６年度におきましては２万4,463台、

令和７年度につきましては２万4,354台というような台数になっております。

◎吉岡勝裕委員長
副委員長。

○辻孝記副委員長
ありがとうございます。これからも変化があまり見えないということでなかなか安定してる部分があるのかなというふうに思いました。これからもずっと続くような料金になりますかと思いますので、その辺も含めてまた考えていきたいと思いますので、またこれからも資料として提出してもらえればと思いますのでよろしくお願いします。以上でございます。

◎吉岡勝裕委員長
他に御発言はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
◎吉岡勝裕委員長
御発言もないようですので、説明に対しての質問を終わります。
続いて、委員間の自由討議を行います。
御発言はありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
◎吉岡勝裕委員長
御発言もないようですので、自由討議を終わります。
以上で、「健康福祉ステーションの利用状況について」を終わります。
「保健福祉拠点に関する事項」につきましては、引き続き調査を継続していくということで、御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
◎吉岡勝裕委員長
御異議なしと認めます。本件については引き続き調査を継続いたします。
以上で本日御審査願います案件は終わりましたので、これをもちまして教育民生委員会を閉会いたします。

閉会　午前11時31分

上記署名する。

令和８年６月２日

委　員　長

委　　員

委　　員